

令和 7 年 1 月 1 6 日

子ども家庭部保育課

民間保育園園長会 意見書

令和 6 年 11 月 21 日

小金井市長 白井 亨 様

小金井市立保育園の在り方検討委員会 委員長 普光院 亜紀 様

小金井市立保育園の在り方検討委員会 副委員長 渡邊 嘉二郎 様

小金井市立保育園の在り方検討委員会について民間保育園代表委員の出席について

小金井市民間保育園 園長会

日頃、小金井市民間保育園にご支援を頂き感謝申し上げます。

標記の件について、別紙ご高覧くださいますようお願い申し上げます。

また、次回会議での全文（詳細資料含む）読み上げと会議資料としてお取り扱いくださいますようお願い申し上げます。

令和6年11月21日

小金井市長 白井 亨 様

小金井市立保育園の在り方検討委員会 議長 普光院 亜紀 様

小金井市立保育園の在り方検討委員会 副議長 渡邊 嘉二郎 様

小金井市立保育園の在り方検討委員会の民間保育園代表委員の出席について

小金井市民間保育園 園長会

【これまでの経緯と今後について】

過去に、今回の委員会と同じような、小金井市の保育を検討するといった会議に、民間保育園代表の選出を依頼されたことがあります。数人の園長が長年にわたり、会議に出席しましたが、その際に、民間保育園の質が低い、保護者満足度が公立保育園は高いといった話が多く出され、そのことに対して民間保育園として、社会福祉法人や株式会社 NPO 法人等の民間保育園で集計した、障害児の受け入れ数やアレルギー児数、病児病後児保育、多様なサービスについても資料提出したにも関わらず、報告書には一切そのような文言が残されなかった経緯がありました。特に、よくこのような会議で取り上げられる「小金井市保育検討協議会」の報告書については、会議中全くそのような発言がなく、民間保育園の代表園長が、何度も修正メールを保育課に送信したにも関わらず、議長 副議長に取り上げられることなく、公立保育園優位の内容の報告書ができたという過去があり、非常に今でも残念でなりません。

そのため、今回保育課の堤部長より依頼のあったこの会議の委員選出について、民間保育園からは選出しないことを伝えたところ、二度とそのような会議にはしないと発言や、他の委員の選出についてもこちらで精査しているといった発言、ファシリテーターといった方の介入、そして以前までの会議の内容の見返しもしているようだったため、再度園長会で委員の検討をおこなうこととしました。しかし、どなたも委員になる方はその場ではいらっしゃいませんでした。

その理由として、大半の民間保育園園長は、過去の会議の様子を聞き、公立の今後の在り方でもあるため、公立の関係者で話をすすめればよいと考えていること、会議が公立保育園の保護者の発言が大半になることが予想されること。また、公立は民間保育園よりも保育の質が高いという話し合いである限り、同席する意味がないこと。

何より、小金井市の民間保育園として、公立保育園の必要性を今までも、そしてこれから

も実感できないのが現実です。多くの他市の公立保育園では、基幹園として実施している、支援の必要なお子様の受け入れや、エピペンの必要なお子様、医療的に支援の必要なお子様、外国籍のお子様、病児保育他多様なお子様を民間保育園ではすでに、歴史的にも受け入れをしてきています。子ども家庭支援センターや保健センターとの連携、児童発達支援センター「きらり」や警察署、小平児童相談所などとの連携も、公立保育園に頼ることなく、各園で実施しています。また小金井市の民間保育園の巡回相談費用の公立との格差など、様々な公立保育園と民間保育園の不公平感のある中でも、民間保育園は独自に対応しているのが現状です。

小金井市の公立保育園は、老朽化し古くなっても改修できていない園舎（非常階段の修繕含む）やおもちゃの状態、パソコンの台数の少なさ、職員の雇用の不安定さと求人難、また多様な保育サービスの展開についても、ここ数十年大きな変化がない中、小金井市の民間保育園が多くを担ってきており、憤りと子ども達の安全が守られていないことをとても心配し憂慮しています。公立保育園の職員が民間保育園へ巡回訪問するといった案についても、とても受け入れられる状態ではないと認識しています。

そのような中でも、委員として出てくださった民間保育園園長先生達に対し、やはり以前と同じ会議進行が繰り返され、市長をはじめ 委員長 副委員長 保育課も、民間保育園を擁護することなく、議事が進行し、民間保育園園長先生が交代で傍聴する中、限界を感じています。

特に、委員の先生方には、業務も忙しい中、毎回会議時間が大幅に延長し、保育園見学においては、民間を批判するような意見が繰り返し聞こえ、非常に精神的に追い詰められた状態が続いています。

今後も会議の内容が、「これからの小金井市の公立保育園のありかた」について、民間を含めた「小金井市の子ども達の未来を考える会議」でなければ、私たち小金井市民間保育園の代表委員が出席する意味がなく、現在辞任を検討しているところです。

つきましては、12月の民間保育園園長会までに、上記の件について、文章での具体的な改善策を盛り込んだ回答をお願いしたく、以下、各項目について、詳細な文章をお示しします。また、改善策が示されない場合には、12月13日（金）午後2時より開催されます、小金井市民間保育園園長会にて、その旨報告させて頂き、今後の対応を決定していきたいと考えます。ご検討くださいますようお願い申し上げます。

小金井市立保育園の在り方検討委員会における各事項の詳細説明について

1 委員選出の経緯

小金井市立保育園の在り方検討委員会の委員選出の打診を保育課からされたのが4月11日の園長会でした。この会がどういったものかという説明もあまりないまま4月中に選出をして欲しいと依頼されました。保育課としては頭数としていてくれればいいという感覚でいたのだらうと推察されますが、会の趣旨が不明瞭のまま、民間保育園から2名の選出など、当然ながら誰も立候補が挙がらず、4月中には決めることができませんでした。5月の園長会でも選出のための時間を割きましたが、やはり保育課からの具体的な説明がなかったために決められず保留となりました。改めて説明会の場を設けて頂いたのが5月28日です。そこでの説明でも年間の日程などは伝えられたものの、なぜこの会が必要なのか？どのような方向性で行きたいのか？などの答えはなく、結局は条例違反になってしまうからという杓子定規な回答でした。さらに過去の同様な会の委員を経験されている園長先生方から、民間園の意見は通らなかった、資料を提出したが、記録からも一切消されていたなどの民間園をないがしろにするような会であったと聞き、今回はそのようなことが起きないようにして欲しいと何度も訴えた結果、保育課も了承したため、6月4日に委員2名の選出となりました。

これまでに2か月間を要し、民間園の園長先生方は、たくさんの時間と労力をかけてきました。過去のようにはないと約束をして頂いた会議ですが、10月の会議の内容は民間園と公立園を比較し、あろうことか同じ小金井市のお子様をお預かりしている保育園でありながら、民間よりも公立の方が優れた保育をしているというような印象の発言がなされ、市民が目を通せる議事録にも残るといことはどういうことでしょうか。当初の約束はどうしてしまったのでしょうか。2か月の時間を労して委員の選出をした意味がなくなりましたし、代表委員として民間から立ってくださっているお二人にも大変失礼な場であったと憤りを隠せません。

2 園見学含む 会議の感想

《保育園見学についての経緯》

まず、最初は民間園の見学に際し、民間代表委員の保育園（ドリームキッズ武蔵小金井園 武蔵小金井雲母保育園）の予定でしたが、急に変更になりました。またその際、民間代表委員の意見として、民間保育園は園庭がある園と無い園、歴史がある園など様々な保育の工夫をしている園があることから、民間保育園を2園見学した方がいいと、保育課の吉田さんに提案しましたが、全く反映されませんでした。また、げんきな森保育園が選ばれた経緯もきちんと説明されていません。（見学時間の兼ね合いと園庭や駐車場のある園という理由のみの説明）このことについては、小金井市（国や東京都含む）が園庭のない園でも認可してきているのであれば、そういった保育園もみてもらいたかったと感じています。

《保育園見学の感想》

園見学の感想を小金井市のホームページに載せた事についての説明をしてほしいです。載せる話を聞

いていないことと、一個人の感想を出すのはどうなのでしょう。見学先の民間園に、内容の確認もとらず、不利益になるような感想をそのまま公表することに憤りを感じています。

公立保育園の見学の感想を述べさせて頂くと、施設が古く、子ども用トイレにドアが無いなど、驚くこともありましたが、ドアをつくるなど工夫をして保育を行っているようでした。職員配置は多いように感じましたが、有資格者なのか、加配や配慮の必要な園児の為なのかの説明はなかったです。

園見学バスの中では、委員の方が大きな声で、公立園と民間園を比べるような発言をしていましたが、そういう場ではないこと、そのような発言をしている委員に対して保育課や委員長、副委員長が誰も止めようとしていなかったことは残念でなりません。

この会は、小金井市の保育の在り方を話し合う会議であって、公立と民間を比較したりする場ではないはずが、方向性として民間を貶める会議に内容が変わってきていると感じています。小金井の保育のあり方を子ども達の事を考えて話し合う場に戻らないのであれば、民間代表委員は出席する意味がないと思います。

3 待機児童解消のため園庭のない民間保育園が認可されてきたことについて

委員長より「小金井市の民間保育園の園庭保有率が非常に低い」というお話が会議の中でありました。公立園ではすべての園に園庭が整備されていて「公立園の重要な特性になっている」という言葉があったかと思います。このことは本当なのでしょう。

平成26年4月に小金井市では、過去最大の257名という待機児童数となり、このことは日本中でもクローズアップされ「保育園落ちた 日本死ね」という言葉が出たことは記憶に新しいと思います。小金井市としても、民間園が待機児童解消のために施設数を増やし、現在では39園の民間園となり、待機児童は令和5年4月に「0」となりました。

東京都の認可保育所の基準では園庭が設置できない場合「園庭の代替地」が認められています。そのため全ての民間園では園庭もしくは代替地、または園庭+代替地といった、お子様達が安全・安心に体を動かせる場所を提供しています。また小金井市は緑豊かな町であり、大きな公園も多数あり、歩いて公園まで散歩に行くこともできます。民間保育園の園庭保有率を調べたところ、別紙の表にある通り、園庭 または園庭+代替地のある園が74%となっています。園庭が無い園でも、お子様たちがのびのびと遊び、日々の保育が安全安心にできるよう工夫している園がほとんどだと認識しています。このことで公立園と比較することに大変疑問を持ちます。

4 「誰でも通園制度」や「多様な他者との関わりの機会の創出事業（こがねいにここをサポート）」について

東京都において新たに実施する「誰でも通園制度」や「多様な他者との関わりの機会の創出事業」について、実施予定の民間園に対し、先日保育課より事務説明会がなされました。その際「民間のサービ

スを奪ってはいけない」との説明を受けました。

現在、民間保育園で実施している、様々な保育サービス（直近ではトワイライトステイ事業や午後7時以降の延長保育、年末年始保育、病児病後児保育、一時預かり 定期利用保育 相談事業 妊産婦の支援 アレルギー児やエピペン所持 医療的ケア児他）など、長年にわたって受け入れをしていますが、公立園ではいかがでしょうか。公立保育園の在り方検討委員会にて、是非取り上げて頂きたい大きな課題だと考えます。

5 労働基準法に即した勤務管理について

公立保育園は勤続年数が高い、民間保育園は育休等の制度が整っていないのではという意見が会議の中でありました。民間保育園であっても労働基準法に則り、育児介護休業法などの国が定めた法律を守ることは当然です。また、民間保育園でも勤続年数の高い園もあり、「チーム保育推進加算」（平均経験年数12年以上の補助金）を頂いている園があります。

その上で、保育士不足が深刻化する中、新規採用や産休育休の代替職員の確保が難しいことは、公立園も民間園も同じだと考えます。ハローワークからの求人無く、人材紹介や派遣会社に頼らざるを得ない状況です。職員の待遇などについて、確かな根拠もなく、公立園は優れているといった間違った認識で会議が進行することがないように、きちんと調べた上での発言をお願いします。

6 保育のスタンダードとは何か

公立保育園はスタンダードな保育を守っているとの発言がありましたが、それはどんなことを意味するのでしょうか。

保育のスタンダードとは厚生労働省の定めた「保育所保育指針」に基づく保育であり、その保育の基本原則を守るとは公立・民間問わず認可保育園の常識だと考えます。保育内容についても、よくこのような会議で取り上げられる「保護者満足度」といった言葉について、それぞれの保育所は（公立 社会福祉法人 株式会社 NP 法人他）とうきょう福祉ナビゲーションというサイトにて、第三者評価結果の公表が一般にされています。公立保育園と同様に高評価を受けている園がとても多いのが実情です。とはいえ、子ども達を取り巻く環境は目まぐるしく変化し、保護者の子育てについての考え方やニーズも急速に変わってきている中で、小金井市の民間保育園では保護者に合わせた多様な保育に答えてきています。しかし、小金井市の公立保育園はここ数十年、どのような保育サービスを展開されてきたのでしょうか。このあたりも、この会議で検討すべき課題だと考えます。

7 「民間保育所の設備整備費補助金等について」

会議の中で、公立保育園と民間保育園の設備整備費等の格差の話がでました。公立保育園は、全額市の自己負担であり、民間は補助金があるといったことを言われていた委員の方がいたかと思えます。

そもそも、民間保育園は限られた財源の中で、修繕や建て替えのための中・長期計画を立案し、そのための積立金を何十年もかけて捻出し、その上で、その費用に備えています。例えば、東京都であれば一番高額となる、土地代の補助金は民間の認可保育園には全くありません。現在は新規開設するには、通常の保育事業に新たな保育サービスを追加しなければ、開設を認めてもらえないため追加の広さも必要となります。

また、建て替えの際には、園児が一定期間過ごす仮園舎の場所と費用も考えなければなりません。公立であれば、場所を確保することは同様に困難とはいえ、市の所有する空き地や他にも選択の可能性がありますと思いますが、民間保育園は独自に探すこととなります。例え賃借料で、その期間賄ったとしても高額なランニングコストがかかります。公立園では市の土地があるためその費用はかからないのではないのでしょうか。

民間保育園が多数の欠員になった場合、違う福祉施設への転向といった話もあったかと思います。民間園は、資金の使途が厳しく制限されており、同法人内の認可保育園にしかお金を拠出することができません。そのため、保育園から障害児・者施設や老人施設への転向、その部屋だけ他の福祉施設のために使用するなどといったことは、現行の制度では認められていないのが現実です。

これだけの民間園を、無計画に増設した責任は小金井市にあります。民間がそのことで影響を受けることがないように、0歳児欠員補助対策の継続は是非引き続きお願いします。

保育制度の正しい知識を持ち、書面の数字のみで民間はお金がある 公立は不公平だといった意見になることのないよう、会議に臨んで頂き、民間ばかりが不利にならないよう精査して議事進行を進めて頂きたいと考えます。

8 10年後 20年後を見据えた 未来の小金井市の子ども達のための会議になるために

私共小金井市民間保育園園長会として要望することは、公立と、社会福祉法人や株式会社、NPO法人など経営・運営母体の比較ではなく、小金井市のお子様（乳幼児）を預かる施設として、未来の小金井市の保育全体を視野に入れた会議を望んでいます。このことを考えていくためには、小金井市がまずどのように考え、会議の方向性を進め精査していくのかという大きな枠組でのビジョンが必要ではないのでしょうか。そしてそれをどう細分化し、適切な時期に適切な対応をしていくのか、ということが大変重要だと考えます。小金井市長や関係各所管の管理職が変わる度に、方針が大きく変わるものであってはならないと考えます。

関係各位が、これまでの小金井市の歴史や保育事業の経緯を理解した上で、現状の課題について検討し、ぶれない方向性を示して頂きたい。それは、今後10年後 20年後の市制を支えることとなるお子様を一市民と位置付けた上で、市の財政を守り健全化し維持していくことができなければなりません。堅固なリーダーシップを持ち、この困難に立ち向かっていくことが、今こそ求められているのではないのでしょうか。

その上で、小金井市内の各園が、比較ではなく、手を取り合って協力し、自施設の地域性や特色を生かし、保育所保育指針に沿った保育を展開し、保護者が選ぶことのできる多様な保育サービスと、園が

選ばれるための施設になるよう努力していくことが大事だと考えます。

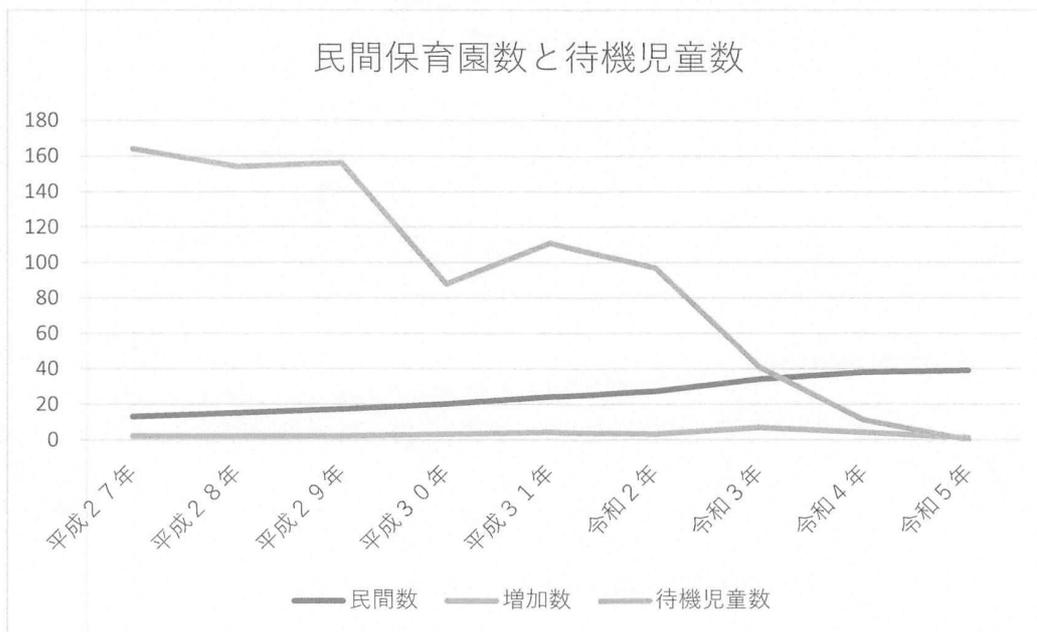
今後も今までのような会議が継続される場合には、小金井市民間保育園代表委員の辞任も辞さないことを11月の園長会で、参加者総意のもと決定いたしました。

つきましては、12月13日（金）午後2時より開催されます小金井市保育園園長会までに、具体的な文章での改善策を提出して頂きたく、その解答により今後の委員の出席を検討させていただきます。

何卒。ご理解くださいますようお願い申し上げます。

		開設日時	園庭あり	園庭+代替	代替え
1	4	しんあい	昭和25年9月1日	○	
2	1	光明第二	昭和25年9月12日	○	
3	2	ひなぎく	昭和26年9月1日	○	
4	3	愛の園	昭和27年2月15日	○	
5	5	貫井	昭和29年12月1日	○	
	40	くりのみ	昭和43年6月1日	○	
	41	わかたけ	昭和45年6月1日	○	
	42	小金井	昭和46年11月1日	○	
	43	さくら	昭和48年4月1日	○	
	44	けやき	昭和50年4月1日	○	
6	9	駅前コスモ	平成15年11月1日		○
7	7	ひまわり	平成19年4月1日	○	
8	6	こむぎ	平成21年4月1日	○	
9	8	アスク 北口	平成22年4月1日	○	
10	10	学びの森 プチクレイシュ	平成22年12月1日	○	
11	12	第二コスモ	平成24年2月1日		○
12	11	ういず	平成27年4月1日	○	
13	17	きしゃぼっぽ	平成27年4月1日	○	
14	13	グローバル	平成28年4月1日	○	
15	14	キッズ 東小金井	平成28年4月1日		○
16	15	第六コスモ	平成29年4月1日		○
17	16	まなびの森	平成29年10月1日	○	
18	18	キッズ 武蔵小金井	平成30年4月1日		○
19	19	ドリームキッズ	平成30年4月1日	○	
20	20	雲母	平成30年4月1日		○
21	21	第十コスモ	平成31年4月1日	○	
22	22	キッズ桜町	平成31年4月1日		○
23	23	しんあいのぞみ	平成31年4月1日	○	
24	24	小金井公園ハイジ	平成31年4月1日		○
25	25	貫井あおいそら	令和2年4月1日	○	
26	26	小金井なないろ	令和2年4月1日	○	
27	27	グローバル第二	令和2年4月1日	○	
28	28	上水ハイジ	令和3年4月1日	○	
29	29	えほん	令和3年4月1日	○	
30	30	キッズ新小金井	令和3年4月1日	○	
31	31	げんきな森	令和3年4月1日	○	
32	32	ヴィラ	令和3年4月1日	○	
33	33	学研	令和3年4月1日	○	
34	34	十八コスモ	令和3年4月1日		○
35	35	二十コスモ	令和4年4月1日	○	
36	36	キッズ小金井中町	令和4年4月1日		○
37	37	アスク 南口	令和4年4月1日	○	
38	38	アンジェリカ	令和4年4月1日	○	
39	39	にじいろ	令和5年4月1日	○	

	民間数	増加数	待機児童数
平成27年	13	2	164
平成28年	15	2	154
平成29年	17	2	156
平成30年	20	3	88
平成31年	24	4	111
令和2年	27	3	97
令和3年	34	7	41
令和4年	38	4	11
令和5年	39	1	0
	民間園増加数	28	



	園庭	園庭+代替	代替のみ	民間	公立	合計	園庭のみ率	園庭+代替含め
平成27年	6	5	2	13	5	18	33.3	61.1
平成28年	6	6	3	15	5	20	30.0	60.0
平成29年	7	6	4	17	5	22	31.8	59.1
平成30年	7	7	6	20	5	25	28.0	56.0
平成31年	9	7	8	24	5	29	31.0	55.2
令和2年	10	9	8	27	5	32	31.3	59.4
令和3年	13	12	9	34	5	39	33.3	64.1
令和4年	13	15	10	38	5	43	30.2	65.1
令和5年	14	15	10	39	5	44	31.8	65.9

民間園増加数 28園

